

副腎皮質ホルモンの塗り薬について

◎市販の薬は症状が治まったら塗るのを止める

虫に刺されたり、チョットしたボツボツが出来たときなど、市販の塗り薬を使う場合があります。また、皮膚炎などで皮膚科にかかっている方もみえると思います。かゆみや炎症が強いときに使われる薬に副腎皮質ホルモン(ステロイド)が入った塗り薬があります。大変よく効く薬です。

この薬の使い方ですが、市販の塗り薬の場合は、かゆみや赤みが治まったら、塗るのを止めてください。薬と一緒に入っている添付文書にも「長期連用しないでください」と書かれています。



◎皮膚科などの処方薬は医師の指示を守る

皮膚科などで医師により処方された薬の場合は、市販薬とは使い方が異なります。医師の指示を守った使い方をすることがとても重要です。例えば、症状によってはかゆみや赤みが治まっても副腎皮質ホルモンの薬を一定の期間使い続けて、きっちり治す治療法があります。ちょっと良くなったからといって、自己判断で使用を止めると、再燃を繰り返して治りが悪くなる場合があります。勝手に使用を止める前に、なぜ止めたいと思うのか、主治医やかかりつけ薬剤師に相談してみましょう。きっと良いアドバイスがもらえると思います。

また、塗る量が少なすぎると効きが悪いことがあります。副腎皮質ホルモンの塗り薬の場合、大人の人差し指の先から第一関節の長さまでチューブに入った薬を出したとき、大人の手のひらの面積の2枚分(両手分)が塗れる量となります。よくわからない時は、薬剤師に聞いてみましょう。



◎副作用などの心配は薬剤師に相談

さて、小さなお子さんから大人まで持続することがあるアトピー性皮膚炎の治療薬には、副腎皮質ホルモンとは違う働きをして、過剰な免疫を抑える薬がいくつか発売されています。今年5月にはさらに新しい働きの塗り薬が発売されました。新薬によって治療する方法が増えることは、とても素晴らしいことです。しかしながら、副作用が全くない薬はまだありません。治療を効果的に安全に進めるためにも、薬について相談できるかかりつけ薬剤師を持ちましょう。

ステロイド!
副作用は大丈夫?



薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎ 058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会

〒500-8146 岐阜市九重町4-5

<http://www.gifuyaku.or.jp>

岐阜県薬剤師会

検索